



**メンタルフォースを成功させる
最大のサトルティ**

メンタルフォース実践のための練習法

突然ですが。

あなたの目の前に、トランプ 1 組と油性ペン 1 本を持ったマジシャンがいます。

「カードにサインをしていただきます。どれでも好きなカード 1 枚の名称をおっしゃってください」

あなたは、なんと答えましたか？

アンビシャスカードを演じる際、使用カードがこの世に 2 枚とないという証明のため、自由に 52 枚の中から $1/52$ の確率でカードを選ばせ、更にサインと日付を描いて、世界で 1 枚だけのカードを作ってから演じる演出法があります。

現象の性質上、デュプリケイトがあってはフェアな現象にならないからです。サインをした後に「過去において、ハートの 2 にサインをしたことがありますか？」と訊いてきます。答えは勿論、「いいえ」です。

『 $1/52$ の確率で自由にカードを選ばせ、』と私は言いました。実際には違います。

『どれでも好きなカード 1 枚の名称をおっしゃってください』とマジシャンは言っています。

ゲストとして、ここはセンスを問われる場面です。ということは、既にこの時点で $1/52$ の確率ではありません。センスを問われるという条件が必然的に前提として存在していた場合、『好きなカード 1 枚』という台詞は、既にフリーチョイスではないのです。

あなたが言う『好きなカード』の印象から、あなたの性格を占われるかも知れません。出来ればスマートな回答を述べて、良いセンスのある人だと思われたいものです。

マジシャンは「カードにサインをしていただきます。」と言っています。カードの余白は、無いよりもあったほうがいいですね。絵札は避けましょう。

よく見れば、マジシャンが持っている油性ペンのインクの色は黒です。黒いカードに黒い色でサインをするより、赤いカードに黒い色でサインをしたほうがコントラストが効いていて見栄えがいいですね。

だからあなたはハートの2を選んだのです。

これが『メンタルフォースされた感覚』に限りなく近い感覚です。

メンタルフォースは絵空事ではありません。確実に存在します。

実際にアンビシャスカードを演じる際、このような状況をフォースを意識せずに作ると、本当にスポットの小さな、赤いカードを言われることが多いものです。勿論、100%ではありません。

ここでの着眼点はパーセンテージではありません。

『このような状況をフォースを意識せずに作ると、』 ここです。

ゲストにフォースを意識させずに、ニュートラルな状態でこのような状況を作ると、赤いローカードを選んでしまう仕組みが人の心にあるということ、この事実だけでも演者側が認め、実感できれば「メンタルフォースは可能である」という意識を持つことができます。

裏を返せば、「これからあなたの言うカードの名を当ててみせます」と明言して『フォースを意識させた状況』を作ると、先ず間違いなくメンタルフォースは不可能でしょう。

『メンタルフォースされた感覚』を今持ったあなたは次に、『メンタルフォースする感覚』を持つ側、メンタリストになれるはずです。メンタルフォースの仕組みの一部を知ったのですから。

私は実際にアンビシャスカードを演じる際に、「あれ？『お好きな数字とお好きなマークを。』と言っているのに、意外に人の想像上のカード1枚は幅が狭いなあ」と思ったことがあります。かなり偏ります。

アンビシャスカードはマジックですが、特にフォースする類の現象ではありません。

アンビシャスカードとメンタルフォースは、状況として、演者と観客がいて、これからマジックが始まるということだけが相似・類似点であり、カードの予言をするわけでもなく、カード当てをするわけでも無いのがアンビシャスカードです。

アンビシャスカードの観客はカードを選ぶ際に別に身構えていません。まだ、マジックは始まっていないからです。始まったとしてもそれはサインカードの瞬間移動であり、そのカードが何であれ、ハートのエースであれスペードのキングであれ、アンビシャスカードの現象は起きます。カード当てではない現象ですから『カードの名称を言う際に身構えずにニュートラルな状態で』言うのです。「カードの名称には、特に意味はない」と観客が思いこんでいるからです。

この身構えていない状況に、好みが加わり、『サインをする余白』が必要になった場合に既にフォースは成立しています。つまり意識していないうちに設けられている、当たり前のような制限です。

マジシャンはあなたにサインをさせようとしています。仮にととても太い油性ペンであった場合、余白の部分が狭い絵札を選ぶでしょうか？それで綺麗に美しくサインが出来るでしょうか？と、考えた途端に12枚の絵札をメンタルフォースのチカラで『封じ』られています。あと40枚の中から選ばなくてはなりません。あれ、本当に40枚ですか？クラブの10は？スペードの10は？ペンのインクの色はどうになりました？ここはセンスを問われる場面ではなかったのですか？あと何枚残っています？

この制限こそ、すなわち、心をコントロールするフォースです。

ここでは、『アンビシャスカードの場合はフリーに選ばれたはずのカード1枚が、スポットの小さなカードになりやすい。』と聞いて、「そう言えばそうかも・・・」と置いていただければ充分です。メンタルフォースは、先ずその存在を信じていなければ身につけることは不可能ですから。

予言やカード当てをする際に出来る限り自然に、このアンビシャスカードの状況に近い場を作ってしまうことでメンタルフォースの成功率が高くなると考えていますから、その方法について述べていこうと思っています。「アンビシャスカードを演じます」と言わずに、アンビシャスカードの状況、空気を作ってしまう、無理なくメンタリズムをパフォーマンスするという事です。

メンタリズムから遠く、スライハンドのスキルを問われるジャンルのアンビシャスカードだからこそ、この制限が知らず知らずのうちに生まれ、深く考えることなく特定の範囲内にあるカードを選んでしまう意識が自然に生まれるわけですが、この意識をメンタリズムの場で体現化しようという試みを解説したハンドブックが、あなたが今持っておられる本書です。

あなたはハートの2にサインをしました。

サインカードはデッキの中で不可思議に上下移動を繰り返しました。

マジシャンは演技の終わりに、「このサインカードは記念に差し上げます。あ、そうそう・・・これも。」と言って財布の中から1枚のカードを出しました。

そこには今日の日付とマジシャンのサインが為されており、カードは『ハートの2』でした。

ようこそ。

メンタルフォースの世界へ。

2018年、6月 橋本英司

<目次>

<前書き>	-----	3
<メンタルフォースとは> (本書の読み方)	-----	10
1) 究極のメンタリズム メンタルフォース練習法		
【的中率 99%のメンタルフォース】(アクシデントさえ無ければ成功する)		
手順その1	-----	13
手順その2	-----	16
手順その3	-----	18
手順その4	-----	21
手順その5	-----	24
スートのメンタルフォース	-----	27
安全な手順：手順例その6	-----	28
★ レギュラーデッキに見えるブレインウェーブデッキ	-----	30
オマケ：橋本からのプレゼント奇術		
2) メンタル・フォースいろいろ		
【セブン・カード・メンタル・フォース】	-----	34
【ESP カードとメンタルフォース】	-----	36
【本を使ったメンタルフォース】	-----	37
【演者として メンタルフォースの魅力】	-----	39
3) メンタルフォースの原理		
【伝統的、正統派、本格派メンタルフォースの原理】	-----	41

【サクラについて】	-----	45
【即席のサクラ その正体】	-----	47
【メンタルフォースを体感する】	-----	47
4) 『アウト』	-----	51
【トライアンフアウト】	-----	53
【パーム】	-----	54
【台詞によるアウト】	-----	55
メンタルフォースではメイトカードも当たりに等しい		
【即興で演じたアウト】	-----	56
【ヒンバーワレットアウト】	-----	57
【メンタルフォース的中率のサトルティ】	-----	58
5) メンタルフォースとは、これです		
【『コーヒーカップ・メンタルフォース』】	-----	58
【『コーヒーカップ・メンタルフォース』 応用アイデア】	-----	61
【クラシックフォースについて】	-----	62
【ESP カード使用の効果】	-----	64
【単体で演じるメンタルフォース】	-----	66
剛力でねじ伏すよりも、合理的にフォースする		
【アウト専用デッキ】	-----	72
【最適な観客作成方法】	-----	80
【簡易マーキュリーホールド】	-----	82
【メンタルフォースしやすい観客】	-----	84
【『それ』に代わるもの】	-----	86

【ESP カード的中率成績優秀者作成法】	-----	88
【マルチプルアウトワレット並みのレギュラーデッキ】	-----	90
6) 正統派メンタルフォースの、実演での練習法		
(アウトなし!?)	-----	93
【無意識の意識に訴えかけるサイン】	-----	95
【予言カードを 1 枚示さずに 1 枚だけ示す方法】	-----	98
【レギュラーデッキ以外でのメンタルフォース】	-----	99
【ACAAN】 アイデア	-----	100
【候補 2 枚の予言】 簡単だからこそ怖いメンタルフォース	---	101
【技法について】	-----	104
【メモライズドデッキ+ACAAN+メンタルフォース+アルファ】	-----	108
★ メンタルフォースと ACAAN 考察	-----	111
★ ACAAN のコツ	-----	116
★ 容易にメンタルフォースを成立させる演者	-----	118
★ 演者度胸をつける方法 即効性のある方法	-----	119
★ 推奨する正統派メンタルフォース法	-----	120
★ メンタルフォースの本質を解説	-----	121
★ 「アウト専用デッキ」その2 使用法	-----	122
★ 「どんなカードでもいいの？」に対応する	-----	123
★ 橋本がやらないアウト	-----	124
<あとがき>	-----	128

<メンタルフォースとは>

本書の読み方

メンタルフォースは基本形が無いもの、と思っています。

イメージとしては、心の中で思っただけのカードを当てる、もしくは予言する、の2通りでしょう。

2通りですが原理は2通りではなく多数存在します。

本書ではメンタルフォースの手順を複数掲載しました。

手順内に苦手な箇所があれば自分に合った方法に代えて演じることが奇術解説書を読む際の理想と思いますが、いっそ、その手順を今は捨て、他の頁にある手順の中から最も演りやすい方法を選択していただけたら、メンタルフォース慣れることも早いのではと思います。今捨てた手順が1年後は苦手ではなくなっているかも知れません。

メンタルフォースを演じるにあたり、毎日のように手順や台詞が変わっている自分に気づきます。どれがベストと言えないくらい変わります。

これは相手が毎日異なるからです。相手を見てからフォースカードを考えることが多いため、演者としての戦略も変わり、定形となる手順を定めないようにしているのが事実です。

読んで字の如く、相手のメンタルを読んでコントロールし、フォースしようという現象ですから。

ジェスチャーでカードのイメージを伝えてフォースする手順もあれば、直感に頼るものもあります。他の情報に頼るものもあります。

マジックの実演中、私はよく喋りますし、身振り手振りも多いほうです。

しかし日本人は欧米人に比べ、会話中のジェスチャーは少ないでしょう。

となれば、ジェスチャーに頼ってフォースし、結果的に成功しても、全体の印象として演技が不自然に映るかも知れません。不自然であれば怪しい演技に感じてしまいます。

そう思いになられた際はその手順を読み飛ばし、別の手順の頁に進んでください。何よりも場数を踏むことがより良い練習法です。「ここが苦手だ」と迷っているよりも「これならできそう。」と、演じたほうがいい。

ご自身に最も合った頁が見つかることを願っています。

なお、本書は基本的に、カードマジシャン、メンタリストが一般の方にメンタルフォースを演じるという前提で構成しております。

けして経験豊富な、知識あるマジシャンや奇術マニアの方々を欺く術として作成しておらず、私自身も一般の方にしか演じません。

マジシャンに対して「1枚のカードを心の中で決めてください」と提案するのは、一般の方に同様のことを仕掛けるよりも当てにくく、フォースしにくく、アウトもやりにくいものです。

私のメンタルフォースは元々、ネーム・オー・カードの延長としてスタートしました。

観客に何を演じるかを伝えず、1枚引かせず、好きなカードの名称を訊いて、そこから何らかの現象を起こすもの、これをネーム・オー・カードと言います。言うなれば究極のマルチエンディングマジックでしょうか。

例えば「自由に決めたカードが財布の中から出現」という現象、インビジブルデックの基本現象、これらがネーム・オー・カードです。定形はなく、フレキシブルなものです。都合の悪いカードを言われたらそのカードでアンビシャスカードを演じる。これはネーム・オー・カードの中のアウトではないかと思えます。

若い頃から意識してこの原理を多用、ネーム・オー・カードの研究期間が長いために、データも豊富、かなり汎用性が高く、メンタルフォースのアウトに最適と考え、フォース失敗が全く怖くありません。

「自分には多種多様の、臨機応変なネーム・オー・カードがある」という自信がメンタルフォース実演の機会を増やし、慣れを感じさせ、感覚を養い、次第に精度を高めていきました。

人の考え方は十人十色、千差万別です。そうであるならメンタルフォースにアウトは必要不可欠、真のメンタルフォースに100%はありえません。

実演の際には「必ずメンタルフォースは成功する」と信じて堂々と演じ、外れたら堂々とアウトを使います。アウトは『逃げ』ではなく、悪いことでもなく、失敗の誤魔化しでもありません。メンタルフォースが100%的中するとは限らないと知っているからこそ、ショーを成立させる上で、想定範囲で用意している演者の義務、責任、それがアウトです。

1番いけないことは、失敗を恐れるがあまりに、良いパフォーマンスが出来なく

なることです。「失敗はけして悪いことではない。悪いのは失敗を恐れること。」と割り切る覚悟がメンタルフォースを上達させます。

真のメンタルフォース的中率は7割弱です。6割の時もあります。

そして真剣に演らなければ成功しないため、演者も観客も疲労しやすく、的中したから必ず絶賛されると言い切れません。

これを肝に銘じ、的中率とインパクトの関係性について研究しては実演を続けました。後に手順の頁で詳しく解説致します。

理想はカードマジック実演中にいつでもルーティーンにメンタルフォースを組み込めることです。

機会がみつければすぐに演じてみましょう。数をこなせば上達します。クラシックパスなどの技法練習と異なり、鏡の前で練習するわけには行きません。

本書、各手順のスライハンドはそれほど難しいものはないと捉えています。ダブルターンオーバーは必須テクニックかな？と思います。

カードマジックが全く出来ない方や、人と話すことが極端に苦手な方でなければ、今すぐメンタルフォースの世界へ踏み出すことが出来ると思います。

では、肩の力を抜いて本編をお読みください。

1) 究極のメンタリズム メンタルフォース練習法

的中率 99%のメンタルフォース

(アクシデントさえ無ければ成功する)

手順その1

現象としては『心の中で決めただけのカード当て』直後の『心の中で決めたカード予言』です。

この手順でメンタルフォースの成功を経験し、慣れ、人が心の中でイメージしやすいカードの種類、傾向を掴んでください。

観客の手によってよくシャッフルされたレギュラーデッキを受け取り、裏向きで両手の上で広げ、「通常の手品ではこうして1枚を引いてもらいますよね。そうではなくて。」

—以下省略—

手順その2

—以下省略—

手順その3

—以下省略—

手順その4

レギュラーデッキ使用、オープニングに演技可能です。

カードケースからデッキを取り出し、JOKER 2枚を取り除いてカードケースに仕舞います。

デッキを立ててフェイスを演者側に向けてカジュアルに両手で軽く混ぜながら、

演者：「トランプ手品を始めますが、その前に、私を〇〇さん（TV に出演するような、著名なカードマジシャンの名前です）だと思ってください。あんなに凄い手品は出来ませんが頑張ってみます。」

と、未だ手品が始まっていない雰囲気話で話します。

「〇〇さんが演じるトランプ手品で好きなものってなんですか？」

「〇〇さんの十八番はあの MAGIC ですよね」

のように世間話のように話し続けます。

演者：「カード・イン・レモンっていうのかな？選ばれたカードが消えて、傷一つ無い本物のレモンの中から出てくる。あれって凄いですよね。勿論、私は出来ません。でも先ほど、『私を〇〇さんだと思ってください』と言いましたよね？想像の中であなたはカードを引きました。〇〇さんはそのカードをデッキに戻してシャッフルしました。」

ジェスチャーを交えて、実際には引かずに混ぜるだけにします。

演者：「このあと、レモンから出てくるんですよね？あなたは何のカードを引きました？」

ハートの 10 と言われたとします。

デッキを立ててフェイスを演者側に向けて両手の間で広げ、

—以下省略—

手順その5

好みは分かれます。

人間が持つ心理の盲点、記憶の曖昧さ、ミスディレクション、言わずとも勝手に起きる思い込み等を使用、橋本は好きな方法です。

厳密には全くメンタルフォースしていませんが、易しく演じられ、不思議です。

<現象>

レギュラーデッキをテーブルに置いて、メモ帳を出します。

心の中で決めたカードの名称を訊いてからメモ帳を公開すると一致しています。

—以下省略—

【スートのメンタルフォース】

演者：「トランプを1枚決めていただきますが、先ずマークですね。ハート。1番人気です。みんな言いますね。ハート。次にみつば。クラブとかクローバーとか。言いますね。みつば。次にダイヤモンド。ダイヤのエースとかって言いますが、正式にはダイヤモンド。後で見せますよ。洋式トランプにはクイーンオブダイヤモンドと書いてあります。日本と逆ですね。後にダイヤモンドがつく。えー、3つ言いましたか。最後はスペードです。1つ、お好きなマークをおっしゃってください。」

—以下省略—

以上、その1からその5まで、どれでも最も演じやすい方法を選択し、カードマジックを演るたびにルーティーンに加えて、メンタルフォース慣れしておいてください。特に選ばれやすく言われやすいカードのデータを集められます。

これらの方法はマジックとしては確立されたものですが、メンタルフォースを演じているとは言えないかも知れません。

しかし、メンタルマジックとしては、充分不思議で強力なものに仕上がっていると思っています。

【安全な手順】

＜要点＞

メンタルフォースはフォースの中でも特に「予言する」という内容を伏せておきたい性質を持っています。

「カードを何に使うかは後で説明しますので、先ず使うカードを決めましょう」といった軽い感覚でメンタルフォースすることが成功のコツです。

特に私はカードをどう使うかを伝えない演目、ネーム・オー・カードからメンタルフォースに来た身です。その点を短所と捉えているわけではなく、むしろ特長と考えています。マジックが持つ性質のひとつ、ラストを先に言わないという点

を最大限に利用しようとしています。

したがって予言カード1枚を「これから起きること」として明らかな形で示すようには置けません。

かといって、予言カードの後出しは不思議の質がやや落ちます。アウトしやすい利点はありますが。

そこで予言ということを隠しつつ、テーブルの上に1枚を置いておける状況をとることが賢明な手段です。

メモ1枚でも結構です。予め置いてあっただけで充分です。

例えば上記5つ以外では、

手順例 その6

レギュラーデッキから4枚のエースを抜き出して示しますが、

—以下省略—

レギュラーデッキに見えるブレインウェーブデッキ

オマケです。橋本からのプレゼント奇術

心の中で決めたカードのみ、裏色が異なっているという現象です。決めたカードがひっくり返っているプロット、工程はありません。

通常のブレインウェーブデッキと違い、全体の質量感・総枚数を気にせず演じられます。

デッキのフェイスを見せられるので、現象を見た印象は【アルティメイト・ブレインウェーブ・デッキ】に似ていますが、バイスクル柄ですので原理は異なります。

<演技詳細>

赤裏のバイスクルデッキを両手の上で裏向きで広げ、表向きでも広げて軽く検めます。

「色んなカードがありますが、マークで人気があるのはダントツでハートです。ハートマークという言葉がポピュラーに日常で使われるぐらいですから。ハートに次いで人気はスペードです。あとの2つは人気薄ですが、宝石のダイヤモンドの意味があるせいでしょうか、クラブよりダイヤがやや上の人気です。クラブはミツバと言ったり、クローバーと言ったり、複数の呼び名があるのですが最もイメージしにくいマークで、地味な印象があります。数字は4とか9は嫌がられますよね、死や苦を表すからでしょう。海外では『13日の金曜日』という映画があるように13は嫌われているようです。でも13ってよく考えると王様なんですよね。」

「通常はトランプを1枚引いてもらって当てたりするのですが、今日は引かずに1枚のトランプを決めてもらおうと思います。自由に好きなカードを決めてほしいのです。

—以下省略—

2) メンタルフォースいろいろ

セブン・カード・メンタルフォース

表向きの5枚から選んで心の中で決めたカードを当ててしまうサイコロジカル・フォース、ダイ・バーノンのファイブ・カード・メンタル・フォースによく似た現象です。異なる点は、先に『(本書掲載の) 宙に描くトランプ』メンタルフォースを行ってからカードを見てもらう点、そして枚数の違いです。10枚でも可能ですが、7枚で演じています。非常に的中率の高いものです。

<現象>

D4, S8, D9, CJ, H7, SA, HK の7枚を表向きでテーブル上に並べ、見て1枚を心の中で決めてもらいます。

演者はカード7枚を回収し、1枚だけ裏向きで置きます。

観客にどれを心の中で決めたのか答えてもらいます。

裏向きの1枚をめくると当たっています。

<解説>

—以下省略—

ESP カードとメンタルフォース

バイスクル柄のESPカード25枚、もしくはESPテストデッキを出します。

演者：「これは一見、トランプに見えますがそうではありません。ああ、先に心の中でトランプ1枚を決めておいていただきますか？」

ここで正統派のメンタルフォース手順、『台詞とジェスチャーでフォースする、宙に描いたトランプ』を演じて心の中で決めたカードをイメージさせます。

イメージしてもらったカードを言ってもらいます。

別途用意しておいたトランプをここで出して、そのイメージされた1枚を抜き出し、観客に預けておきます。

演者：「それは後で使いますのでポケットに入れておいてください。」

この後、トランプを片付けて、ESPカードを使ったマジックを演じます。

それが終わった後、次のESPカードマジックとして1枚引いてもらいます。すると何故か、ESPカードではなくトランプを引いています。念の為に他のカードを調べると全てESPカードです。

先ほど観客のポケットに入れておいてもらった、心の中で決めたカードを出してもらうと2枚は全く同じカードです。スーツも数字も一致しています。

演者：「実はそのトランプをイメージしてくださるだろうと、予想していました。と言ったら信じていただけますか？」

現象は以上です。

トリックはシンプルなものです。

—以下省略—

本を使ったメンタルフォース

だいたい同じ厚みの2冊の本を使い、演者と観客の両者が1冊ずつ持ちます。文庫本が適しています。

演者：「私の真似をしてください。Do as I do. とって、そういう設定のマジックがあるのです。では原則として、出来る限り、私の真似をしてください。」

演者は本を開いて立てて持ちます。読書をしている姿勢です。

演者：「何ページ目を開いていますか？」

観客：「141 頁です」

—以下省略—

演者として メンタルフォースの魅力

「飽きないなあ」です。

メンタルフォースに限ったことではありませんが、事前準備、アウト、予言カードのすり替え、ギミックを使う際は多少なりとも後ろめたさがある方がおられると思います。

橋本はそれを「観客の時間を拘束し、期待されている演者の、義務であり責任である」と、とても都合よく置き換えて考えているため、罪悪感は微塵もありません。演るからには多少、図々しく。ふてぶてしく。

読心術系で「自由選択に見えて、実は一定の範囲内から選ぶしか無い」という種のものがあります。これを理解した上で演じているので、ギミックを使わずとも、その台詞自体、その手順自体に嫌悪感がある方、おられるかもしれません。しかしそれは原理と呼ばれる、メンタルマジック特有の賢さ、知恵です。「ありえないぐらい非現実的なことを現実にならそうとしてるんだ。知恵を使って何が悪い？」と、ドンと構えましょう。

ただ、このメンタルフォース、本式の、正統派の、真のメンタルフォースには、タネらしきタネが見当たらないのです。

「タネも仕掛けもありません」なんて言ったことがありませんが、メンタルフォースを演じる時だけは言ってもいいかな？と思ったり。

原理は理解できても、タネらしきタネが見当たらず、TVでも演じているプロマジシャンがいない。(メンタルフォースがテレビ向きではないという理由はありませんが・・・。)

アンビシャスカードは、真似たら出来たという人もおられるかもしれませんが、メンタルフォースは真似しようにも出来ない。習得には実践経験が必要で、練習中に練習出来ない。ゆえに演じる人が少ない。ゆえにメンタルフォースを観た観客が少なく、新鮮である。

的中率、成功率が100%とは言えないマジックって、希少価値がありませんか？
これは、飽きないです。

「タネも仕掛けもありません」と言わないまでも、演者自身も本当にタネらしきタネが見当たらないからこそ、胸を張って演じられる。

まさに究極。

おそらく今から100年生きられたとしても、真髄を掴むことは不可能な世界ではないかなと。

『インフェルノ(想ったカードがマッチ箱から出現)』を知ったときには驚きました。

メンタルフォースとは異なりますが、予言がされていることを言える、心の中で決めたカードの予言です。

ただし、アウトを使ったような形跡が見当たらないパーフェクトさに、演技後に振り返るとある程度の原理が予想できているようです。

マジックの知識や経験のない人でも、「結局は自分の思ったストーリーにはなっていないのですが、」と言われたり、「トークが上手ですね」と言われたりします。

「あー、そういう意味で言ったわけじゃあない！」という感想もありました。しかしそれらは不満の声ではありません。インフェルノは演出が素晴らしいため、10人が10人、満足して楽しんでいただけます。

その代わり、トリック全容解明は出来ないまでも、ここはこうだったと部分的に仮説は立てられるようです。「なんか、途中まではわかったような気がしたけど結局わからない。」という感想も多数ありました。トゥーパーフェクトセオリーです。完璧すぎるがゆえに観客が勝手にトリックを解明した気分になる。自説が、

あっていようといまいと。

「インフェルノ」はメンタリズムパフォーマンスとして、部分的に原理が（うっすらと）わかったとしても不思議であり、一流の作品です。1級品です。

メンタルフォースはそういった魅せる演出の部分が弱く、パフォーマンスとして地味で、例えばTVで行うような類のものではありません。しかし不思議の度合いは1級品で、部分的にであってもトリック解明は不可能です。後で思い返しても、どうしてそういう結果になったのか、全く思議出来ません。

両者は似ていますが、比較するようなものではなく、どちらも素晴らしい現象だと思います。

本書を作成するにあたり、インフェルノを参考に、部分的に演出を手順に入れようと思いました。結局は演出は伝統的メンタリズムの通り地味でシンプルなままです。

メンタルフォースは不思議の度合い、質の高さで生きて来る。

タネも仕掛けもありません。

3) メンタルフォースの原理

伝統的、正統派、本格派メンタルフォースの原理

真のメンタルフォースとは、どういう現象でしょうか。

既にご存知でしょうが、ここで確認しておきます。

- ・観客が心の中で決めたカードをノーヒントで直接当てる。カードをメモさせて内容を当てる設定を含む。
- ・観客が心の中で決めたカードを予言する。予め置いたカードのイメージを演者が送信して観客が受信する設定を含む。

この2つです。

フォースするわけですから、後者のほうが真のメンタルフォースと言われているようです。

明確な定義がないようですので、本書ではこの2つをメンタルフォースと呼ぶことにします。

伝統的な真のメンタルフォースと呼ばれる、正統派の現象は次のようなものです。

演者が1枚のカードを裏向きでテーブルに置きます。

そのカードを指差し、「これからあなたに心の中でカードを決めてもらいますが、それが何故か、このカードになります。あなたはこのカードを選び、言うてしまうのです。」というような内容を予め言って、実際に試してみると、本当にカードは一致しています。

まるで魔法です。

不可能です。

こんなことがあるとしたら偶然か超能力以外に考えられません。

それぐらい不可能で、トリックの入り込む余地が見当たらないフェアな予言だからこそ、不思議の度合いが通常のマジックのはるか上を行っているメンタリズムと言えるのだと思います。

不可能です、と言いましたが、それは『このまま演ったら不可能』という意味です。

「このままはやらないが、現象成立後に振り返ると、このまま演ったように感じる。」であれば話は別です。不可能ではありません。

例えば、極端ですが、

予言のカードを置く

⇒ 心の中で決めたカードを言うてもらう

⇒ 技法で予言のカードを正解のカードとすり替える（難しいですが、ダレン・ブラウンのDouble Think.が良い例です。「デビルズ・ピクチャーブック」に収録。）

これが自然に出来れば、現象だけであれば真のメンタルフォースと全く変わりません。見た目の印象では一緒。

しかしこれはメンタルフォースではなくカードマジックにおけるスイッチですので、「メンタルフォースの原理で現象を成立したものである」とは言えません。

真のメンタルフォースの手順、サトルティ、原理は多種多様ですが、概ね、以下のようなものです。

—以下省略—

サクラについて

打ち合わせありのサクラは使いませんが、即席のサクラについては寛容な立場でいます。マークドテック、フォーシングデックに近い感覚の、使ってもいい原理であり、奇跡を起こすことが確実に近くなるなら、楽しくて面白いものという見解でいます。正直、好きです。

コミカルなマジックを個性にしている演者であれば、即席のサクラはあってしかるべきでしょう。ガチガチのメンタルマジックオンリーであれば、控えなければならぬかも知れません。

マジックには緊張と緩和が必要と言われていています。

緊張だけでは肩が凝って疲れてしまい、緩和だけではショーがだらけて、ショートコントを見せたいのか、不思議を見せたいのかが曖昧で、支離滅裂なショーになってしまいます。

橋本は結構、ガチガチのメンタルマジック派に見られており、ジョークを交えたマジックは演らないと思われています。冗談を言えば怒るかもしれないと思っている観客もいます。

そういう私が最近、即席のサクラを使った、『観客が当てるカード当て』を演じました。

—以下省略—

即席のサクラ その正体

私も含めて、メンタルフォース実演総回数のうち7%ぐらいは演者が知らず知らずに観客を即席のサクラにしてしまい、それに気づかないままにいる、という可能性があります。例えば100回演じて全部フォース成功したとしても、そのうち7回は即席のサクラ。これは勿論、仮説ですがあり得ることです。

即席のサクラにしてしまったことに演者が気づかないでいると、即席のサクラになった観客も「あれは『サクラになってください』という演者からのサインではなかったのかな？」と、曖昧な受け止め方になり、断定できない即席のサクラ説に対して肯定も否定も出来ない心境になります。ゆえに謎は謎のまま。誰にも話さないし、演者も成功したのだと勘違いしているのも、真実は誰ひとりわからない状況になっている。という説です。

即席のサクラ、その正体は謎のままなのかも知れません。

メンタルフォースを体感する（台詞の効果）

次に述べる方法は、読んでみて、想像して、「やれる、出来る」とご自身が思うままでは試さないでください。これは橋本に合ったメンタルフォースの第一歩であり、私も本当に自信を持って演る気になるまでは絶対に実践しませんでした。

これを試す自分を俯瞰でイメージしてみて、少なくとも「演ってみたい」と思うまでは、どなたが試してみても失敗するのではないかと思います。

題して、【メンタルフォースを体感する】。

—以下省略—

4) 『アウト』

過去に、メモライズドデッキを使って「観客が引いたカードではなく、自由に指定したカードをトリアンプで出現させる」という現象を演じていました。そこからの発想で演じていた方法です。

—以下省略—

5) メンタルフォースとは、これです

『コーヒーカップ・メンタルフォース』

メンタルフォースを簡易的に解説してみます。

機会や関心があればのお話ですが、いつか、次のような実験を試してみてください。または、読んで、演じている場面を想像してみてください。

—以下省略—

『コーヒーカップ・メンタルフォース』 応用アイデア

マジシャンとメンタリストの決定的な違いはわかりません。

しかし、『コーヒーカップ・メンタルフォース』のような、トランプ以外のものをメンタルフォース出来れば、間違いなくメンタリストです。

—以下省略—

クラシックフォースについて

クラシックフォースについては別途、考察原稿がありますが、ここではメモマインドカードにおける、バスのピクチャカードのフォースに失敗した際の処置について軽く述べておきます。

—以下省略—

ESP カード使用の効果

—以下省略—

単体で演じるメンタルフォース

剛力でねじ伏すよりも、合理的にフォースする

最も安全な、理に適った、お気に入りの手順です。

—以下省略—

アウト専用デッキ

ここまで頑張っても外れたらアウトを使います。51枚、何を言われてもOKのアウトです。

外れても無表情でいてください。まだ当たりかハズしか相手は知りませんから、冷静に。

「よし。アウトをするぞ」という表情になることだけは避けます。そういう細かい変化は見られているものです。

演者は今までデッキを手にしていませんが、ここでデッキを取り出します。

左右のポケットに1つずつ特殊なデッキが入っています。

—以下省略—

最適な観客作成方法

—以下省略—

簡易マーキュリーホールド

・アウト専用デッキ使用のアウト法 別法解説

—以下省略—

メンタルフォースしやすい観客

—以下省略—

『それ』に代わるもの

メンタルフォースを仕掛けるにあたり、最適な観客の特徴と、そういう観客にしてしまう方法についてはお話しました。

—以下省略—

ESP カード的中率成績優秀者作成法

—以下省略—

マルチプルアウトワレット並みのレギュラーテック

出来る限りマジック用品を使いたくない方に向いている方法だと思います。私はマジックグッズ使用に抵抗がありませんので、これにプラスしてポケットに【ワーオレット】を入れておくこともあります。

—以下省略—

6) 正統派メンタルフォースの、 実演での練習法（アウトなし!?)

蓋然率（がいぜんりつ）とは『確からしさ』を表す言葉で、公算とか、確率、可能性、あることが起きる見込みの度合いのことです。

プロバビリティと一緒に言葉で、選ばれやすいカード群という概念で、メンタルフォースでは使われます。選ばれやすい『確からしさ』の高いカード、ということです。

—以下省略—

無意識の意識に訴えかけるサイン

—以下省略—

予言カードを1枚示さずに1枚だけ示す方法

わかりにくいタイトルですが、デッキをそこにおいたままメンタルフォースして成功しても、何処に予言カードが有るのかを提示していません。この場合の多くは「1番上のカードを見てください」になります。要はケース・バイ・ケースでボトムを見せたりアウトしやすいようにしているわけで、故意に1枚のカードを予言しておりません。

ダレン・ブラウンのメンタルフォースはとことんフェアで、本当に1枚のカードを置き、「これをあなたは心の中で選んでしまいます」といった内容を先に提示してから行っています。メンタルフォース、理想の形式です。メンタリズムもスライハンドも上手いダレン・ブラウンだからこそ出来る芸当です。

そのように1枚予言をしていませんが、終わった時には「1枚だけしか予言カードが無かった」と思い込ませる方法の紹介です。

—以下省略—

レギュラーデッキ以外でのメンタルフォース

メンタルフォースは、いつでも演じられることを重視していますので、あまりトリックデッキは使いません。

しかし使用デッキがマークドデッキであれば話は別です。使い勝手が良いと思います。

—以下省略—

ACAAN

蓋然率の高いカード、もしくはメンタルフォースしやすいカードを、数字フォースしやすい枚数目に配置しておけばかなり実現性が高くなります。

—以下省略—

候補2枚の予言

簡単だからこそ怖いメンタルフォース

—以下省略—

技法について

—以下省略—

メモライズドデッキ + ACAAN

+メンタルフォース+アルファ

ACAAN の枚数目を決めるために、「好きな数字を教えてください」と言って 90 とか 2 と言われると困りますから、範囲を指定して「トランプは 52 枚ありますので 1 から 52 までの間で、んー、中央付近がいいかな、15 から 40 ぐらいまでの間の数字で 1 つ、好きな数字を決めてください。」と言えば実質、デッキ 1 組の半分のみ配列を暗記しておけば良いわけです。

—以下省略—

★ メンタルフォースと ACAAN 考察

メンタルフォース+スライハンドによる ACAAN、メンタルフォース+メモライズドデッキには少し触れましたので、メンタルフォース+セルフワーキングトリックによる ACAAN、その考察です。説明できないカードトリックによく似た感覚で書きました。どれだけ原理を知っているか、どれだけ適した手順を選択できるか、臨機応変な回転の早い頭が必要のようです。セルフワーキングトリック、恐るべし。

—以下省略—

★ ACAAN のコツ

観客が 2 名いたほうが楽です。

A さんにカードの名称をメンタルフォース、B さんに枚数目、数字をメンタルフォースします。

—以下省略—

★ 容易にメンタルフォースを成立させる演者

30年ぐらい前、レギュラーデッキを私が混ぜて、その間にマジシャンは何かメモをし、デッキを私が置いたらメモをオープン。

メモにはカードの名称が書かれてあり、「1番上のカードを見てください」と言われ、見事に一致。

—以下省略—

★ 演者度胸をつける方法 即効性のある方法

—以下省略—

★ 推奨する正統派メンタルフォース法

—以下省略—

★ メンタルフォースの本質を解説

メンタルフォースを演じるときは「言語以外の伝達方法で知らず知らずにフォースカードの特徴を観客に伝えている。」と、意識して演じることが大切です。

メンタルフォースを演じるたびに、演者の表情の変化や僅かな仕草の差異、微かな息づかいや目の動き、語調、声の高低差などから、きっとフォースカードの情報を何処かでキャッチしてくれていると思うのです。成功するたびにこの仮説を信じ込むようになってきて、信じ込めば信じるほど成功率も上がってきたように感じます。

—以下省略—

★ 「アウト専用デッキ」その2 使用法

—以下省略—

★ 「どんなカードでもいいの？」に対応する。

メンタルフォースをして、あまり考えさせず、指を鳴らして「3, 2, 1。どうぞ。」

観客：「なんでもいいの？」（「トランプならどのカードでも言っているの？」の意）

—以下省略—

★ 橋本がやらないアウト

—以下省略—

あとがき

「カードマジックでもメンタルマジックでも、1部の例外を除き、フォース直後に何の演出もなくカードを当てたり、予言成立をしてはならない。」

このように肝に銘じてマジックを演じています。

例えばメモ1枚を置き、リフルフォースをして即、メモを公開、一致しているという手品をミスなく演じても、それは手順として拙いものです。観客は「どうやったかはわからない。でも、こうなるように出来ているのだろう。」と思うだけで、言うなれば面白みのない手品です。

フォースの難しさは技法をバシにくくすることよりも、いつ、何のためにフォースするかを考えること、そして個性的な演出上のアイデアを考案することです。手順の何処で使い、どういう現象に仕上げるか、どう演じたら最も効果的なパフォーマンスになるか、これに常に頭を悩ませています。

オープン・プリディクションは例外です。あの演目もフォース原理や技法を使っていますが、極めてフェアな手順のため、即、予言を公開しても問題はありません。だからこそオープンなプリディクションなのです。下手な演出を足すよりもシンプルさのほうが重宝がられます。

メンタルフォースも演出一切ナシで構いません。何故なら、メンタルフォースでの『心の中で決めたカード』は、本当に制限が感じられない、フェアなものだからです。そのクリーンさ、不可能設定の高さはオープン・プリディクション以上かも知れません。何せ心の中は手品の技術で変えられません。メンタルフォースも演出要らずなのです。

演出アイデアを考えることはセンスを問われます。正直、橋本の弱点がここです。

そういう橋本にメンタルフォースはうってつけの現象です。気楽でした。設定が不可能すぎて、演出が要らない。楽でしょうがない。だからこそ「身につけたい。」と必死になれたのです。

読者の方々に、例えばですが、たった1枚のギミックカードを必須とするマジックでも「仕掛けの効果に頼っている」というような後ろめたさ、罪悪感がある方、おられますか？

インプレッションデバイス、マークドデック、サムチップ、マグネット、ヒンバーワレット、これらを使うときに「怪しい道具だと思われやしないだろうか」と緊張しますか？

そういう方こそ、メンタルフォース向きです。恐るるに足らずです。

例えばインプレッションデバイスで心の中で決めたカードを知ってしまおうとし、観客がその道具の存在をたまたま知っていたとしましょう。それでも、予言のカードは最初からテーブル上に伏せて置いてあります。「インプレッションデバイスを使ったことはわかる。だが、なぜ先に予言のカードを置けた？」そう考え、思考は止まったままです。別の原理、例えばマークドデックのマーキングに気づかれても、「いやそれにしても不思議だ。」となります。究極と言っていい不可能な現象だからこそ、多少のギミックやスライハンド技法がバレても構いません。堂々と使いましょう。胸を張って不可能にトライしましょう。正当なメンタルフォースの原理は誰にもわからない感覚的なものです。そのトリックが部分的に解明できても全容解明は無理。それがメンタルフォースです。

情報社会の世の中とはいえ、そもそもメンタルフォースのタネ明かし、これが出来ません。断言しましょう。無理です。タネ明かし出来たと仮定しても、殆どの人がその理屈に納得できず、マスター出来ないと思います。多少メンタルフォース原理に触れておくことは可能ですが、特化してトリックを明かす人は日本では稀です。メンタルフォースが出来る人は多数おられますが、完璧に身につけても殆どの方が内緒にしておくしかないので。これはメンタルフォースの原理が各々の体感的なものであるがゆえ、完璧な解説や万能な説明（万人が理解できる内容）が不可能だからです。演者Aさんと演者Bさんのメンタルフォース法は、感覚的に原理が同一なものではないのです。

レクチャーは出来ます。しかし、タネ明かしは出来ません。

ということは。

タネがバレることはありえないということです。

安心して演じてください。

アウトの解説なら百でも千でもいくらでも出来ますが、私自身、本書で「真のメンタルフォース解説ができたかどうか？」と振り返ればそれは疑問符です。演っていただいて、徐々に体感していくものですから、演じやすい手順を掲載し、実践の手引き書としました。本書が『メンタルフォース解説書』を名乗っていないのはそのためです。『メンタルフォース事典』にできたらいいなと、夢を持ちましたがそれも不可能でした。

そしてもうひとつ。忘れがちな長所があります。

メンタルフォースでは、マインド・リーディングと違って、心の中で決めたカードを「何をイメージしましたか？」と訊いても良い。心の中で決めたカードを訊いても「え？なんで？なんでそんなこと訊くの？」と不審がられません。ここもメンタルフォースの特長です。ここは存分に活用・利用しましょう。

演出不要、タネ明かし不可能、正解カードを訊いても良い。

演者有利な点ばかりではありませんか。

なお、本書は実践への手引きとしてのハンドブックですから、「もし仮に失敗しても強力なアウトがありますよ。ちょっと演ってみませんか」という趣で書いているため、ともすれば『成功でも失敗でもどちらでも良いフォース』の解説書と受け止められがちだと思います。最初は勿論それでも結構だとは思いますが、それを続けていくと真のメンタルフォースは自分のものにならないと思います。個人的見解ですが、メンタルフォースに慣れたのにいつまでもアウトに頼りすぎではよくありません。

本書は解説書ではなく、実践ハンドブックとしてまとめています。

暗中模索するしかない稀有な術、メンタルフォースに対し、一步踏み出すための手引き書として。

最初はフォース的中率に対し自信が持てないものです。私も失敗続きでした。知識ゼロ、手探りで演じていましたから。

何でも初めてやる時は難しく感じるものです。カードマジックで使うエルムズレイカウントも、最初は「なんて難しいんだ。1年やっても習得できるわけがない」と思いました。クラシックパスも同様です。それでもコツを掴めば眼を閉じても出来るようになりました。それらのコツは脱力することでしょうが、それ以上に慣れることです。諦めなければいつかきっと出来るようになると思えることです。今このあとがきを書いている今日、橋本は苦手な右手のトップパーム、左手のギャンプラズ・パームを練習し、「少し使えるかも知れないな」と思うぐらいに上達しました。数週間前は「無理！」と諦めていた技法です。未来はわからないものです。メンタルフォースが出来ても、わからないものです。

本書を手になさってくださいている皆さんは、ご自身に合ったアウトを選び、用意し、安心して1歩目を踏み出してください。その後、2歩目からはメンタルフォースを成功させることだけを考えて演じていただきたいと思います。

場数を踏むたびに、メンタルフォースを成功させる自分なりのサトルティが徐々に咀嚼出来ていきます。メンタルフォースはクラシックフォースによく似てい

て、練習中に練習ができません。実演中にのみ練習ができます。ということは、場数を踏むことがやはり大切なのです。

真のメンタルフォースは個々に異なった形で存在します。ダレン・ブラウンにはダレン・ブラウンのメンタルフォース、あなたにはあなたのメンタルフォース。絶対を付けてもいいです、あなたのメンタルフォースと橋本のメンタルフォースは別のものです。

聞き飽きた言葉でしようが、習うより慣れろです。水泳を覚えなければ水に入れ、なんです。演じていくうちに慣れていき、自分独自のスタイルが出来上がっていきます。

読み手の方々、皆さんに合った真のメンタルフォース手順をご自身で編み出していただけるよう、本書が闇の中の灯りになるような練習法、手順、設定、シチュエーション、アウト法を橋本英司なりの表現で著してみました。

最後に。

『原理やアウト法に頼って心を読んだかのように見せるのではなく、本当に心を読もうと試み、予言を成立させるように心がけてください。その真に迫る“演技ではない演技”に押され、仮に外したとしても観客は演者の能力を認めてくれるものです。ズバリと当たっても「どうも嘘くさい。胡散臭い。彼は手品師だからどうせタネがあるんだろう。誰も知らないギミックのおかげだろう。」などと思われては、究極のメンタリズムを身につけた意味がありません。』

本書がこの世で1人しか存在していないあなたの、

この世で唯一のメンタルフォース法の秘訣・極意を生み出す、

その鍵となれば、光栄に思います。

「メンタルフォース実践ハンドブック」

by

橋本 英司

編集・販売：（有）フェザータッチMAGIC

www.FTMagic.JP



〒520-0528 滋賀県大津市和辻高城 334-17

電話：090-4284-2670 （竹本 修）

FAX：0120-166-019（FAX 専用フリーダイヤル）

メール：FT@FTMagic.JP

★ この解説書の全てのコンテンツ(情報・資料・画像等)の著作権は、フェザータッチMAGICが所有します。一部、全部を問わず、無断でのコピーはもちろん、いかなる手段での転記、転載（電子メールを含む）販売等の二次使用は一切禁止します。

メンタルフォース実践ハンドブック©2018 FTM: *Feather Touch Magic Inc.*